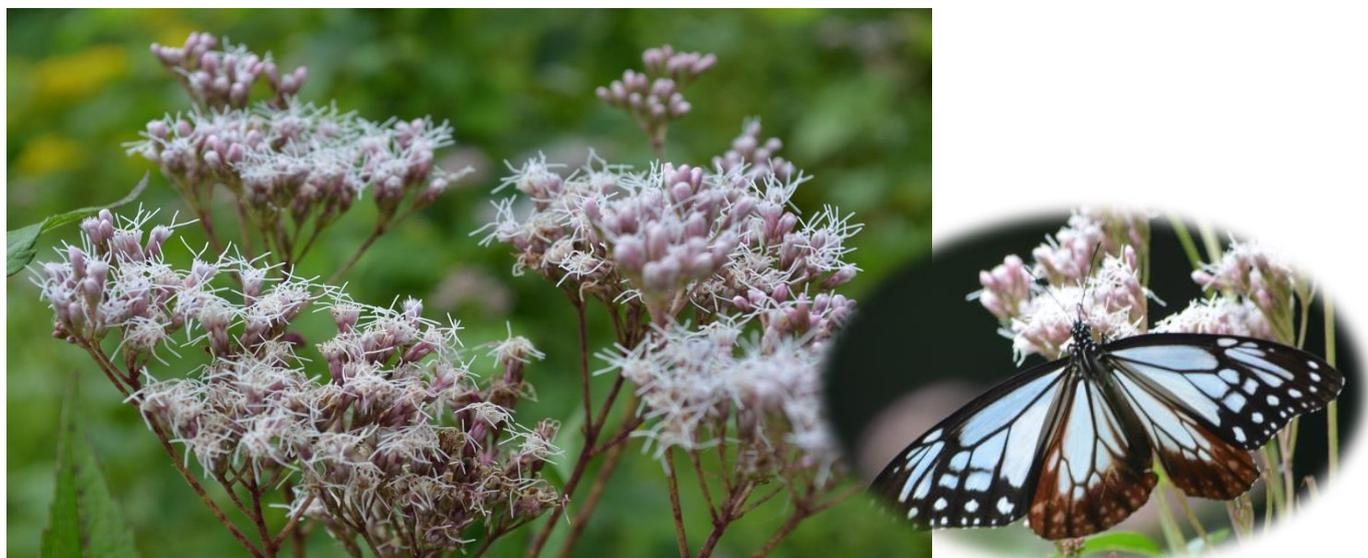


各 位

平成29年9月1日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



フジバカマ(キク科)と渡り蝶のアサギマダラ

9月になるとアサギマダラが野草園のフジバカマの花にやってきます。蔵王の山々で生まれ育ったアサギマダラが南の方に移動するとき、その一部が野草園を通過していきます。アサギマダラの雄は成熟するためにフジバカマの蜜を吸う必要があります。雌を惹き付けるフェロモンを作るために必要な物質が、その蜜の中に含まれているからです。ここで十分蜜を吸ったアサギマダラは、また次の蜜を求めて南への旅に出発します。

9月を迎え、野草園は秋の花が鮮やかな彩りを見せています。写真のフジバカマは筒状花が集まった優しい色合いの花で、秋の七草のひとつです。園内のアサギマダラは、カメラを向けてもあまり逃げ回りませんので、浅黄色の羽を広げて蜜を吸う、きれいなアサギマダラの写真をぜひ撮ってみてはどうでしょうか。また、樹木にも草本にもいろいろな果実が実り始め、ハナミズキにそっくりの花を咲かせていた「ヤマボウシ」は赤い実を美味しく実に実らせ、来園者を楽しませています。

黄色いオミナエシ、紫色のキキョウ、白いアケボノソウ……。秋の穏やかな日、きれいに咲き競う花をバックに家族の写真など撮りに出かけてはどうでしょうか。お待ちしております。

9月初旬～9月中旬の予定

◆『第24回 写真コンテスト』作品募集 9/1(金)～9/24(日)

◆【東北南3県ポタニカルアート作品展】

○日 時 9/3(日)～9/24(日) 9:00～16:30 ※9/3:13:00～ 9/17 展示入替え 9/24:～15:00

○場 所 自然学習センター 展示室

○内 容 ポタニカルアート愛好者の作品を展示し、来園者に鑑賞して頂く。

◆『ポタニカルアート体験講座』

○日 時 9/9(土) 10:00～15:00 (昼食休憩有り)

○場 所 自然学習センター ピロティ ○講師: 日本ポタニカルアート協会会員 杉崎紀世彦氏

○内 容 植物のデッサンと彩色 (喫茶コーナーで昼食)

○募集人員 先着15人 費用は800円 (入園料別、昼食代別) ○申込み 電話で野草園まで (023-634-4120)

◆『健康ウォーキング講座』

- 日 時 9/9(土) 10:00~11:30
- 講 師 市健康づくり運動普及推進協議会
- 内 容 自然に癒されながらウォーキングやストレッチの方法を学ぶ。
- 対 象 先着30人
- 参加費 無料(入園料別) ○持ち物 飲み物、歩きやすい服装
- 申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆◆◆◆◆『秋の野草園祭り』 9/16(土)~18(月) ◆◆◆◆◆

期間中のイベントの参加費はすべて無料です。(入園料別)

◆【水風船プレゼント】○日時 期間中毎日、10時~12時と13時~14時 (無くなり次第終了)

○場所 学習センター ピロティ

◆【餅の振舞い】

- 日 時 9/16(土) 11:00~12:00 なくなり次第終了 …なお当日、整理券を配布します。
- 場 所 自然学習センター前 中央広場
- 内 容 大曾根餅つき保存会による実演と体験餅つきの後、振舞います。

◆【木の実のオブジェ作り講座】

- 日 時 9/16(土) 13:00~15:00
- 場 所 自然学習センター ピロティ
- 内 容 野草園内の木の実を観察し、その後、木の実を使ったオブジェを作成する。

◆【焼き栗振る舞い】

- 日 時 9/17(日) 10:00~12:00、13:00~15:00 なくなり次第終了
- 場 所 自然学習センター前 中央広場
- 内 容 焼き立ての栗の振舞い。

◆【ミニ新幹線運行】

- 日 時 9/17(日)、18(月) 11:00~12:00、13:00~15:00
- 場 所 自然学習センター前 中央広場
- 内 容 東北ライブsteamクラブ須貝健二氏により中央広場で連続運行。*雨天中止

◆【山形まるごと市】

- 日 時 9/17(日)、18(月) 10:30~15:00
- 場 所 料金所の隣
- 内 容 西蔵王の特産物を販売します。

◆【乗馬体験】

- 日 時 9/18(月) 10:00~12:00、13:00~15:00
- 場 所 自然学習センター前 中央広場
- 内 容 子供はポニー、大人はサラブレッドに乗って広場のコーナーを一回りします。毎回大人気で、それぞれ先着100名(当日整理券配布) *雨天中止
協力:山形馬事センター 関 智哉氏。

◆【65歳以上 無料入園日】…9/18(月) 敬老の日の趣旨から、ご家族との来園を応援します。

※なお、ガイドウォーキングと山野草販売、食べ物屋台は3日間とも行います。



この時期、野草園内で見られる花たち



オオケタテ(タテ科) 昔日本に渡ってきた植物で、観賞植物として植えられている大形の1年生草本です。茎は丈夫で直立し多数の枝を出し葉とともに毛が密生します。葉は互生で長い柄があり、大形で広く卵形または卵状心臓形で先端は鋭く尖り、タバコの葉のようなものもあります。花は、長い花穂を出し淡紅色の小花を密生して垂れ下がります。葉は解毒薬の効用があるそうです。



ウゼントリカスト(キンポウゲ科) 東北～関東の奥羽山脈等の山地帯の林内、林縁や草原に生える多年草。茎は林内や林縁に生える時は斜上して、草原に生えるときには直立するそうです。花時には根生葉と下部の茎葉はなくなるようです。名は花の形が舞楽の楽人の冠に似て、蔵王山の山形県(羽前国)側で採集されたためです。全草に毒を持っています。



台湾ンホトトギス(ユリ科) 沖縄県西表島、台湾などの亜熱帯地域の山地や森林の湿った場所に自生し、高さ30～50cmになります。和名は、斑点が入る花を、鳥のホトトギスの胸の模様に見立てたことに由来します。園芸用に品種改良されたものが多く栽培されていますが、本種は台湾ンホトトギスと本州・四国・九州に自生するホトトギスの交雑種と思われます。



シュウメイギク(キンポウゲ科) 観賞用として庭に植えたり、人里近くの林縁などに生える多年草です。古い時代に中国から入ってきた栽培品で中国では秋牡丹といわれているそうです。名は、秋に菊によく似た花をつけることによります。しかし、本種は菊でも牡丹でもなく、英名の「ジャパニーズアネモネ」が示すとおり、秋咲きのアネモネそのものです。



オミナエシ(オミナエシ科) 日当たりのよい山野に生える多年草です。葉は対生し羽状に分裂し裂片は狭くまた尖ります。茎は上部で枝分かかれし、黄色の小さい花を多数つけます。果実は長楕円形でまわりは翼状にはなっていません。秋の七草として有名な植物です。花が満開になるとその独特なおいで、オミナエシが咲いていることがわかります。



センニンソウ(キンポウゲ科) 山野などの土地に生える多年生のつる植物です。茎は長く伸びてまばらに分枝し、葉と同様に無毛です。葉は対生、奇数羽状複葉で3～7枚の小葉があります。葉の腋に白色の花を多数つけます。萼片は4枚で十字形に平開し、それが花弁に見えます。伸びた花柱は白色の羽毛状になり、それが仙人のヒゲを連想させます。



ツリフネソウ(ツリフネソウ科)

水辺に群生する1年草で、茎は赤みを帯び節はふくらみます。草丈は50cm程度で、茎の先に数個の花をつり下げます。花は紅紫色で、距はいちじるしくうしろに突きでて渦巻き状になります。果実は熟すと果皮が裂けて種子を飛ばします。名は、帆かけ船をつり下げたように見えることからきたようです。



フジバカマ(キク科)

本州の関東地方以西、四国、九州の土手などに野生する多年草です。奈良時代に中国から渡来したものと考えられているそうです。葉は短い柄があって対生し、長楕円形～長楕円状披針形でふつう3深裂します。頭花は淡紅紫色で5個の筒状花があります。秋の七草のひとつですが、野生は少なくなっているそうです。



サラシナショウマ(キンポウゲ科) 落葉樹林内や草原などに生える多年草。茎の先に総状花序をだし、柄のある白い小さな花を密につけます。花には両生花と雄花があり、萼片は楕円形で早落します。名は晒菜升麻で、若葉をゆでて水でさらして食べることによります。根茎は肥大し、乾かしたものは生薬の升麻で解毒・解熱剤などにするそうです。



ワレモコウ(バラ科) 山野に普通に生える多年草で、葉は互生し長柄があり、奇数羽状複葉です。小葉は5～13枚で長楕円形です。花は楕円形で、上から下へと開花します。花は花弁がなく4枚の萼片が花弁のように見えます。萼片は暗紫色で雄しべは4個で葯は黒く萼片より短いようです。名は紋所のモコウからきたものといわれています。



アケボノソウ(リンドウ科)

山野の湿り気のあるところに生える2年草で、茎は直立して枝分かれます。葉は対生し、形は披針形です。合弁花ですが、白い花は深く5裂し、ほとんど離弁花に見えます。裂片には黄緑色の密腺溝が2個と黒紫色の斑点が多数あります。「曙草」の名は、花の色を明け方の空に見立て、斑点模様を夜明けの星々に見立てつけられたようです。



カリガネソウ(クマツツラ科) 北海道~九州、中国に分布

する、山地や原野に生える多年草。近くによると不快な臭気を持っています。茎は四角形で、葉は鋸歯のある広卵形で対生し、葉腋から長い柄を持つ集散花序を出して、紫色の唇形花をまばらに付けます。雄しべ、花柱ともに長くて、花冠から飛び出すのが特徴です。和名は、花の形が雁の姿に似ることからです。



キツリフネ(ツリフネソウ科) 北海道~九州の林内や林縁

など湿った半日陰地に分布する1年草。和名は黄花のツリフネソウの意味です。50cm程の茎を直立して分枝します。葉腋から花茎を出し、黄色の花を数個咲かせます。花は葉の下(裏)にあるのが特徴です。淡紅色のツリフネソウの距がクルリと巻くのに対し、本種の距は伸びています。



アキノギンリョウソウ(ツツジ科) 山地の林内の木陰など

に群生しますが、葉緑体を全く持たないため、光合成を行わない腐生植物です。草丈は10~20cm、葉緑素が全くないため、全体が白色で、まるで幽霊のようなので「ユウレイタケモドキ」の別名があります。花は後に上向きになり、茶褐色に変色していきます。和名は、「秋に見られる銀の竜の様な植物」の意味のようです。



センニチコウ(ヒユ科) 古く日本に入ってきた園芸用の草花

で、庭園に植えられているが、熱帯地方原産の1年生草本です。茎の先に長い花茎をだし、その先に1個の球状の花をつけます。花は色のついた翼のある2個の小苞に包まれた多数の小花からできていて、小花は普通紅色であるがまれに淡紅色、または白いものがあります。名は花が長持ちするからです。